

家庭数

平成29年2月6日

旭小学校
PTA会員の皆様

世田谷区立旭小学校
校長 菊地 まゆみ
PTA会長 志村 ちあき
家庭教育学級委員長 武隈 善子

第3回家庭教育学級 ご報告

平成28年11月21日、本校多目的室にて「子どものトラブル、どう対処する?」と題し、いじめ対策コンソーシアム副代表・教育コンサルタントの吉沢昇司氏にご講演頂きました。

講師 いじめ対策コンソーシアム副代表・教育コンサルタント 吉沢昇司 先生

世田谷区教育委員会 生涯学習・地域・学校連携課 社会教育係 指導員 杉本一郎様
旭小学校 学校運営委員会 委員長 水上英佐子様
旭小学校 菊地校長、寺西副校長
PTA会員 48名(家庭教育学級委員含む)

～講演内容～

① 菊地校長 挨拶

本日はお集まり頂きありがとうございます。講師の吉沢氏をお招きし、大変興味深い内容についてお話し頂きます。今日学んだことがそれぞれの家庭教育の中にいかしていければと切に願っております。最後までよろしくお願いいたします。

② 志村PTA会長 挨拶

今回、家庭教育学級も第3回になり、保護者の皆様に大変関心のある内容になっております。ぜひ皆さん持ち帰って、他の方々に広めていって頂ければと思います。大勢の方々に参加頂き、ありがとうございます。大変楽しみにしております。

③ 旭小学校 学校運営委員会 委員長 水上英佐子様 挨拶

学校運営委員会では、いつも皆様にご協力頂きましてありがとうございます。いじめと自殺をゼロにするための3種の神器(生きているだけで100点満点、生まれてきてくれてありがとう、笑顔)を広めて頂きたいと思っております。

④ 吉沢先生 講演

<自己紹介>

企業や各種団体を対象に多様な教育研修を企画し、講師を務める傍ら、3年前より文部科学省「いじめ対策」委託事業にて小中学生を対象として「いじめをなくす為の心の動き・働きを学ぶ」をテーマに出張授業を行っています。

いじめの根源となる「人にはそれぞれに違いがあること」、「他者との違い(多様性)を受け入れること」、そして「いじめに発展していく心の動きや働き、集団の及ぼす力(社会心理)」を取り入れながら参加者が体感できるような内容になります。

<アイスブレイク>

物事には両面があり、一つにとらわれない色々な見方がある事に気付くことが重要です。

<人それぞれ>

ダイバーシティ(多様性)を知る：良い社会、いいコミュニティを作る為の大事なキーワードです。隣の人との違いを見つけ話し合う：お互いの違うところを尊重する事が出来れば、良さが生かれます。先入観、偏見にとらわれずぎてしまうと正しい判断ができなくなります。

多数派の考えだけで決めるのではなく、少数派もひとつの個性として認め合うことが大切です。

<心の働きや動き>

人は情報の受け止め方も怪しい所があり、自分が注意している事、聞きたい事、経験した事、感覚的に好きな事はすく受け止めやすいのです。それ以外のことは、目の前を素通りしがちです。このことを

認知バイアスといいます。また、人は、同じ話でもポジティブな話の方が受け止めやすく、希望をもてたほうが前に進みやすい傾向にあります。

<集団の力>

実際に子どもたちに心理ゲームを体験してもらい、さくら役の数人の子どもたちが意図的に1人の子どもだけを疎外すると、疎外した子どもたちは楽しいと感じ、疎外された子どもは人を信じられなくなるという結果になりました。このような集団が作る心理のことを集団圧力といいます。無意識で誰にでも起こることであり、集団思考、身内びいき、同調が代表的な集団が作り出す見えない心理です。

<まとめ>

違いを認め合い、集団になる力を上手く見つけていき、そのような力を及ぼさないようにしていくのが大切です。発生してしまうと力は大きくなるので、早めに介入し発生抑制する事が大事です。集団化は悪くありませんが、それが少数派を責めるようになるのは危険です。多数派と少数派が互いに認め合うことで、いじめを起こりにくくすることができます。

⑤ 菊地校長 ～旭小学校の子どもたちの実情～

旭小の子どもたちはすごく明るく、子どもらしく、非常に人懐っこくのんびりしているように感じています。この数年、校舎内がきれいになり、規律正しい行動も見られるようになりました。欠点としては子どもらしさの半面、自己中心的なところが強く、相手のことを意識したコミュニケーションを上手に身に付けるのに時間がかかってしまいます。考えて行動することが身に付きにくく、望ましい生活習慣が身に付きにくいまま大きくなる傾向があります。思った事をすぐに口にし、相手を傷つけてしまうなど、素直な所が欠点になる場合もあります。子どもたちに気になる行動があるときは、担任だけでなくいるいるな先生が子どもたちに関わる機会をもち、必ず複数の教諭で共有し話し合い、学校全体で指導にあたるようにしています。学校だけでは解決できない内容、踏み込んだ家庭の問題については外部機関と連携を図って双方で話し合い対応するようにしています。子どもたちには自ら伸びる力がある為、大きな目で子どもたちを包みながら育てていきたいと考えています。保護者の皆さまには是非、保護者会に参加して頂き、問題がある点については保護者会で伝え、自分の目で確認して頂きたいです。最後に、保護者の方々に次の5点をお願いしたいと思います。子どもの将来を見据えた視点をもつこと、子どもの自立のために離れて見守る視点をもつこと、子どもを客観的に見る視点をもつこと、状況により変化する子どもの姿をありのまま受け入れること、子どもの様子で気になる点がある場合には、まず学校へ相談して頂くことです。

⑥ 志村PTA会長のお話 ～おとなしめな旭っ子たちが駒留中学に進学した後の様子～

今回、駒留中学校へ進学した旭っ子たちの様子をお話するにあたり、私自身の中学生の子どもも含め、留中学生たちにアンケートを実施しました。駒留中では近年、学年差はあるものの学校行事や学力について、他校と比べてもよく頑張っているそうです。旭小の子どもたちは素直で控えめな子が多いようですが、旭小で培った生活習慣が中学校生活への順応に役立っているようです。中学校での勉強、部活動を両立させる心身を健全に育むために、小学生の時には良く食べ、良く遊び、良く寝るという生活習慣が大切です。また、中学生になった時に自発的に勉強ができるよう、勉強を嫌いにさせないことが大切です。

⑦ 世田谷区教育委員会 杉本様 挨拶

見ているつもりでも見えていないものが日常的に多くあります。子どものアンテナからすると間違いない事でも、親としてそれが本当に全てのことなのかという見方をもつことが大切です。子どもは生活の中で頑張っていて、集団の中で自分が出せない、自分だけ外れてしまうことが多少なりともあります。そういう状況になった時、お家の中で親御さんの受け止め方次第で子どもたちを救うことができます。皆さんが今日お話を聞いて受けとったものを大事にして頂けるといいのではないかと思います。

⑧ 寺西副校長 挨拶

本日は有意義な時間をありがとうございました。

～参加者の声(アンケートより)～

- ・ 心理学からのアプローチが興味深かった。親自身も「決めつけ」や「思いこみ」「偏見」がある事に気付けた。
- ・ 多様性を認め合うことが大事であり、そのようにできる集団であってほしいと思います。
- ・ 校長先生のお話はご自身の母親としての体験をふまえたお話でとても良かったです。
- ・ 校長先生のお話は学校の様子がよく伺えて良かったです。PTA会長さんのお話も、まさに”現場の声”を映していて興味深かったです。

世田谷区立旭小学校家庭教育学級

子どものトラブル、どう対処する？

講師：吉沢昇司

自己紹介：吉沢昇司(よしざわしょうじ)

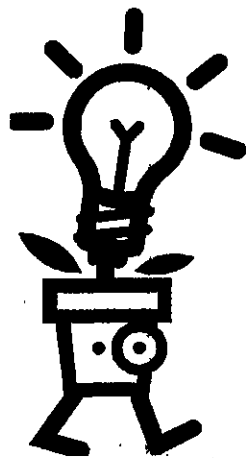
職業：経営・教育コンサルタント

いじめ対策コンソーシアム副代表

文部科学省いじめ対策事業委託でも小・中学生に授業を行う

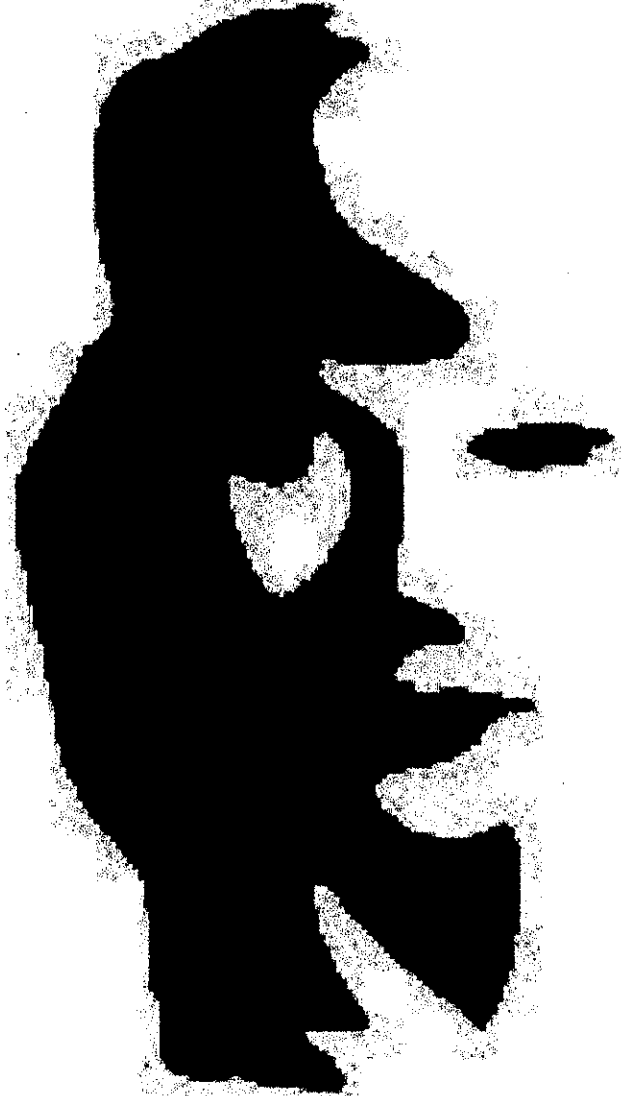
家族：妻・息子(小4)

0. アイスブレイク



どう見えるかな??

案内に掲載したこの絵は何に見えました？

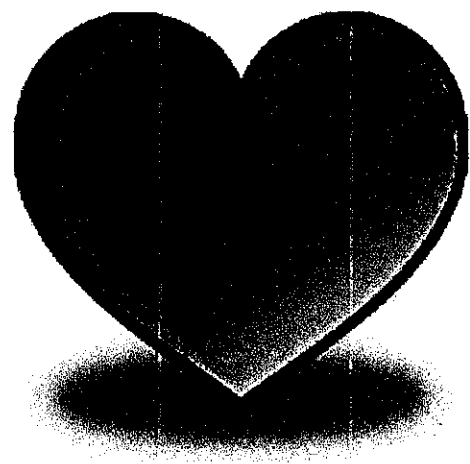


今日の講座の内容

小5以上の授業で用いる画面も使いながら...

1. 人それぞれ
2. 心の働きや動き
3. 集団の力
4. まとめ

1. 人それぞれ



ダイバーシティを知ろう

隣の人との違いを見つけよう

(1)生まれつきのこと

性別、身体(肌・髪・顔・背など)、障害のあるなし…

(2)生まれ育ちの環境など

育った場所、言葉、家族構成、住まい…

(3)その他に

得意不得意、好き嫌い、考え方(価値観)…

人それぞれ(多様性)

みんなそれぞれに違いがあるのがあたりまえですね。

それぞれに違いがあることを「多様性」と言います。

人それぞれ違いがありますが、

①自分で変えることができないこと、と

②今後自分で変えることができること、があります。

どんな違いがそれぞれ当てはまりますか？

人が自分と違う時にどう感じますか??

どっちが「すごい」? 「えらい」? (優劣)

他の人との違いがあった時に
どっちが「すごい」とか「えらい」とか「ダメ」とかって
比べてしまうことがありますか?

①自分が変えることができない違いを比べられて
否定されたら、どのように感じるでしょうか?

それぞれに「違い」があり(=多様性)、
それを認めあうことを「ダイバーシティ」といったり、
これを重んじることを「人権尊重」といったりします。

男の子がピンク色好きは変？(偏見・先入観)

男子がピンク色の物を持っていたり、服を着ていたら「変」だと感じますか？

転校してきた子が太っていて同じリレーの班になりました。この子が「足が遅い」から勝てないと思いますか？

好き嫌いや得意不得意なども人それぞれ。

自分の感覚や考え方が絶対に正しいとは限りません。

太っていても足が速い人もいます、

男でピンクが好きなの人もいます。

少数派って変？(マジョリティとマイノリティ)

男は女を女は男を好きになる人が多いですが、
男の人を好きになる男の人は「変」ですか？
女の人が女の人を好きになるのは「変」ですか？

日本で生まれ育って日本の学校に通っている友達、
その多くは日本人ですが、その中に
日本人じゃない人がいたら「変」ですか？

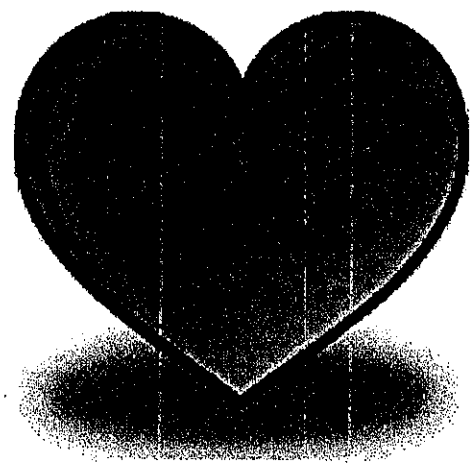
大勢の人たちと「違う」人もいます。
少数だからといって「ダメ」でも「変」でもないはずですよ。
少数派も認め受け入れることが「ダイバーシティ」です。

どっちが悪い？（多数決）

クラスでAさんとBさんがケンカをしました。
クラスの多くの方は普段から乱暴者のAさんが悪い
のだろうと思っていますが、AさんはBさんが悪いと
言っています。どっちが悪いのか、クラスみんなの
多数決で決めることは正しいでしょうか？

考え方や見方にも「違い」があります。
一つの答えを選ばなければならない場合でも、
様々な意見を聞いて、多くの方が納得するように
話合うことが、多様性を尊重した決め方と言えます。

2. 心の働きや動き



“心理学”という学問から

心理学とは

人が

- ①情報をどのように受け止めるか
- ②受け止めた情報をどう頭と心で取り扱うか
- ③その結果どう反応・行動するか

を研究する学問

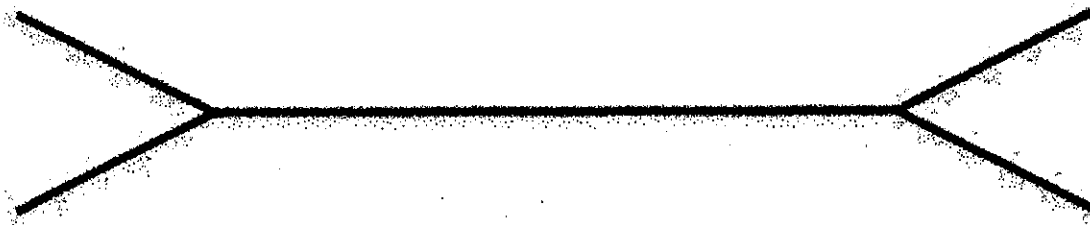
※「情報」ってなにかわかるかな？



①～③は当然人それぞれに違いがあるが
共通にみられる法則(理論)もある！

それを見つけるのが心理学

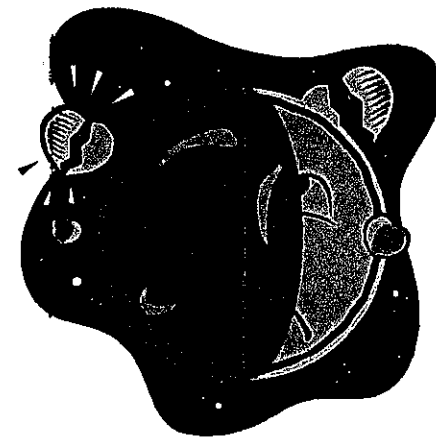
どっちが長い？



錯覚(さっかく)

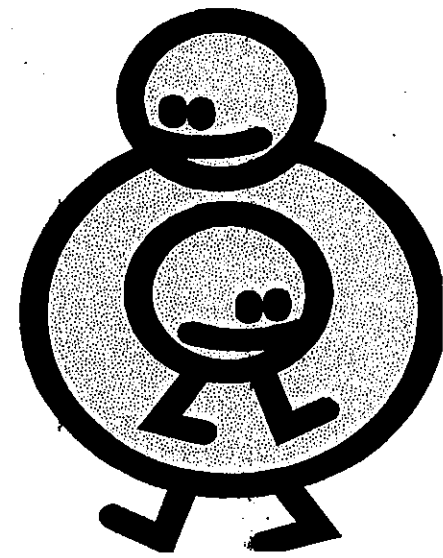
**情報を受け取る、五感に問題がないのに
実際とは違う知覚をしてしまうこと**

**人間の情報を受け止める能力は万能ではなく、
誰もが「現実を間違っって受け止める恐れがある」
ことも示している**



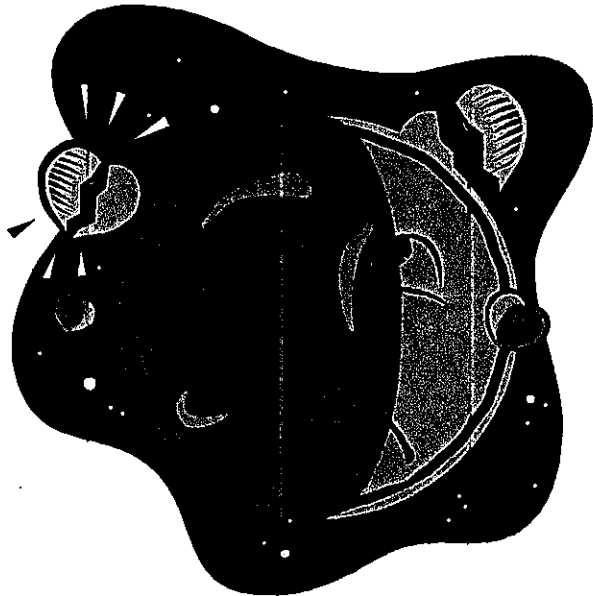
見たいものが見え、聞きたいものが聞こえる

人は誰でも、
自分で「見よう！聞こう！」と思った情報は
受け取りやすく、
自分で「見よう！聞こう！」と思っていない情報は
受け取れなく
なってしまう性質を持っています。
(これは無意識でも起こります)

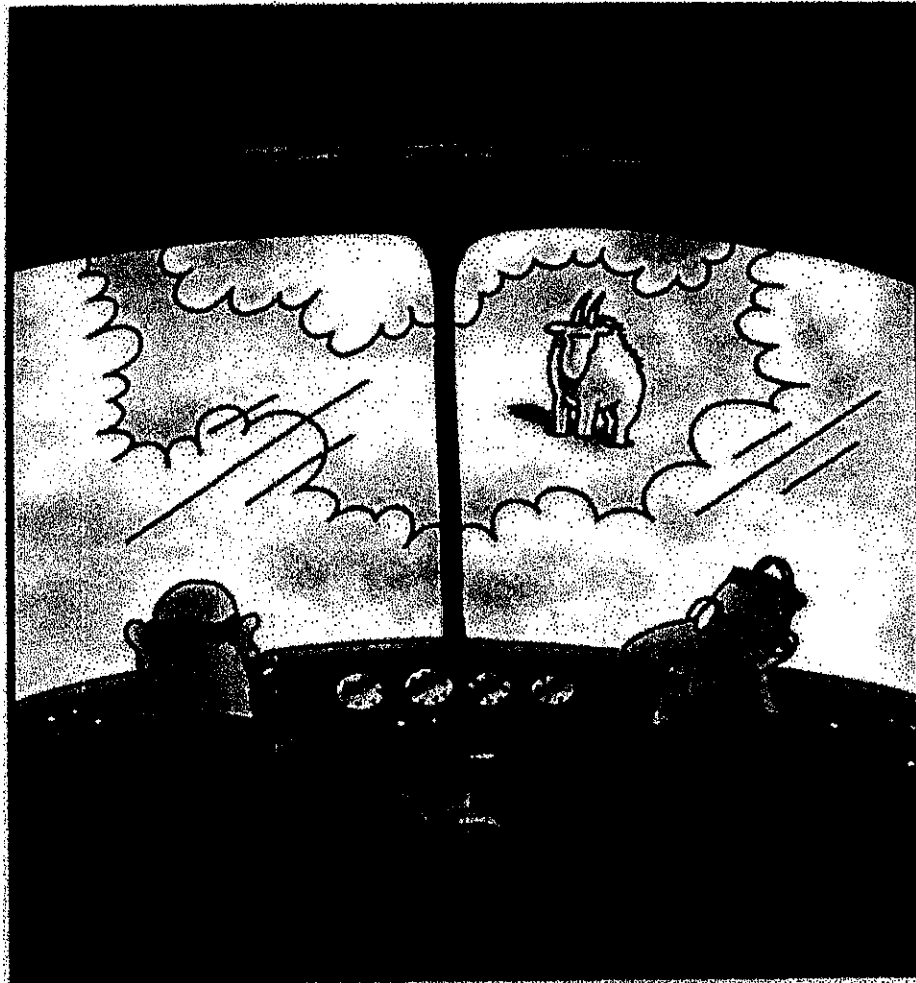


見たいものが見え、聞きたいものが聞こえる

人は、受け取ろうという情報以外のことには
目を配ったり意識を向けることができにくくなって
しまったり、ひとつの情報に影響を受けすぎて、
自由に考えることができにくくなってしまいます。



見たいものは見え、聞きたいものは聞こえる



ヤギが雲の上で、
一体何をして
いるんだ？

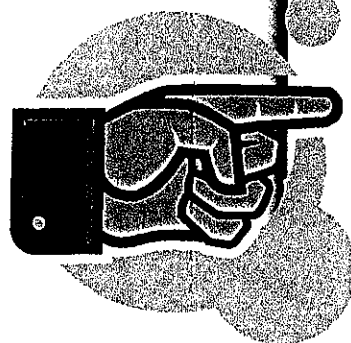
「信じていることしか見えない」

イラスト提供

Dennis Meadows氏

このような人間の特性を心理学の用語で「認知バイアス」といいます。※バイアスとは「偏り(かたより)」という意味です。

ここまでで学んだことをまとめてみると・・・



このように言葉や絵などの「情報」が人の感じ方にどのように影響を及ぼすかを研究する学問が心理学なのだ。

だれでも、言葉や絵の使い方のちがいでいいなと感じたり、いやだなと感じたり正しいと思ったり間違っていると思ったりする。

だから、言葉の使い方や顔の表情などでまわりの人の感じ方も変わってくる
ということは覚えておこう！

3. 集団の力



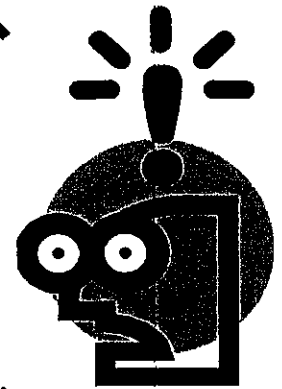
心理学の観点から

心の動き

- ・人の心(気持ち)は、揺れ動く
- ・人の心(気持ち)は、考え方に影響を与える！

心の持ち方や気持ち(感情)は
考え方(思考)や体の動き(行動)につながっていて、
お互いに影響を与え合っている。

特に、心(気持ち)が追い込まれてしまうと
緊張したりあせってしまったりして
いつもとはちがう発言や行動をしてしまうことがある！



集団が作り出す見えない力

人は「集団」になると、心(気持ち)に大きな影響を及ぼす
新たな力を生み出すことがわかっています！

⇒この力を心理学では「集団圧力」といいます

これから
どんな種類があって
どんな影響があるのか
学んでいこう！



集団が作り出す代表的な見えない力

(1) 集団思考

・・・みんなが似たような考えに偏っていく

(2) 身内びいき

・・・集団のなかまどうし仲良くなるけど、
他の集団とは敵だと感じてしまいやすい

(3) 同調

・・・集団(多くの人たち)が少数(何人か)と
意見がちがうときなど、少数は心理的に
追い込まれて意見を言えずに多くの人たちと
同じ意見に変えてしまったりする



集団の力について

集団になると

「自分たちは正しいことをしている」

という思い込みが強くなり、

自分たちが言っていることを反対する人に対して

「拒否するとひどいことになる」

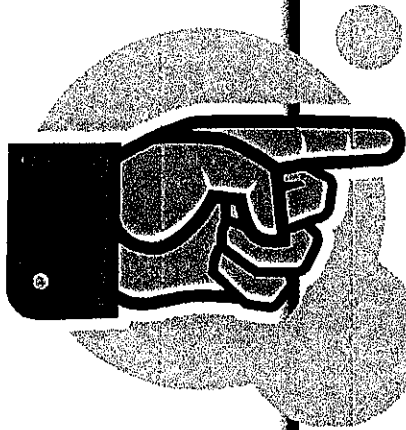
というプレッシャーをかけて賛成させようとする

これが「いじめ」になっていく危険がある。



集団の力について

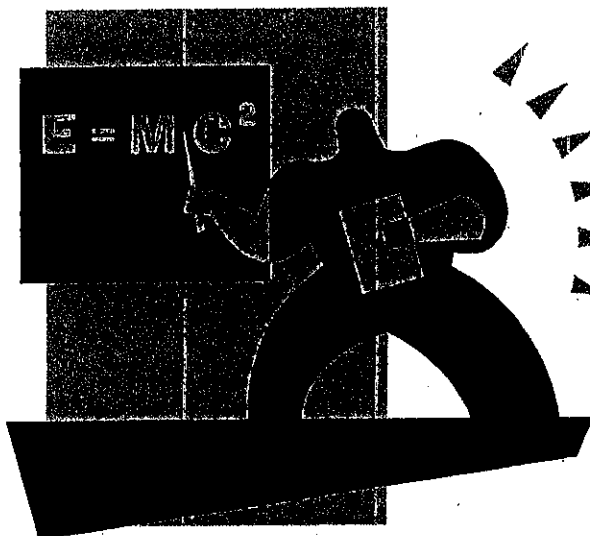
「集団」は少数を無意識に攻撃し、
意見を変えさせて
従えさせようとする力を持つ！



「集団」に入った時は、お互いに
相手の心をキズつけるような、
「同じ意見になれ！」というプレッシャーを
あたえないようにきをつけよう！

少数に対し、「同じ意見になるように」
強制したり従わせたりするような力に
気をつけよう！

4. まとめ



子どものトラブル、どう対処する？

今日のここまでの講座内容から

小学生のトラブルは、些細な「いざこざ」や、「違い」を理由にしたゲーム感覚の「からかい」などきっかけは様々。

これが繰り返されると「いじめ」となる可能性もあります。さらに、教室内では「集団の力」が及ぼす可能性もあり、その「いじめ」が深刻化するケースもあります。

これらは特定の子どもやクラスでだけ起こるものではなく、どのクラスでも起こりうることなのです。

これを防ぐために、保護者には何ができるでしょうか？

発生抑止

みなさんに聞いて頂いた内容を授業として実施する狙いは

- ・「いじめ」のつもりはなくても相手はそう感じているかも
- ・集団の力によって、無意識で「いじめ」に加担しているかも

ということを子ども達に感じてもらうことにあります。

つまり、いじめ防止は「発生抑止」が重要です。

「価値観」や「考え方」、「コミュニケーションスタイル」、さらには「ストレス」や「幸福感」など、子ども達が家庭内で影響を受けることはたくさんあります。学校でのトラブル「発生抑止」のために保護者は何ができるでしょうか？

心と身の安全

子どもが学校でトラブルに関わると、
誰かが傷ついている可能性があります。

「身体的な傷」は(後遺症という深刻なケースもありますが)
確認も回復も目に見える可能性が高いため
容易に対処できるかもしれませんが、
「精神的な傷」は確認も回復も困難なケースがあります。

トラブル発生後、子ども達の「心身の安全」のために
保護者としてどのようなことができるでしょうか？

講座はおしまいです！

子どもは宝です。
我が子も我が子の友達も、
同じ学校に通う子ども達を
たくさんの大人の温かい眼差しで見守り、
子ども達を育てていきましょう。

